

工場設備の維持管理にレジテクトが貢献しています

① 新工法が耐酸性に威力を發揮

今回の仕様決定に向けては施主やゼネコンの施設の使用条件、被覆材の要求性能、作業性等を満足して頂けるよう、また安心して採用して頂けるようテストピースを作成して供用中の施設に浸漬し確認を行いました。

浸漬商品は下記の5種類です。

- ①ボリテックS-C工法（耐有機酸用エポキシ）②断面修復モルタルにはダイラックスーパー#100（耐硫酸性モルタル）③耐酸シーリング材（目地材）④⑤無機塗材2種類

また、作業条件としては食品工場のため、施工時に「無臭」であることや、これらの製品の開発背景となった重要なポイントは日本下水道事業団の指針マニュアルの改正に沿うこと、ビル地下ピット（厨房除外施設）等で見られる「有機酸」含水で侵食が起こらないことです。

試験結果から、修復材として②の耐硫酸性モルタルを採用しました。この耐硫酸性モルタルは、下水道事業団との共同開発技術（モルタル単独での施工）をベースとしており、他社モルタルよりはるかに優れた耐酸性を有しております。

そして、この塗り重ね材料には①のエポキシを採用することで、性能的にも、経済的にも、満足する仕様が完成し、施主、ゼネコンとも承認が得られ、現在、実際に施工が開始されており、非常に高い評価を得ております。今回は事前に材料の臭気確認を行うなど施工環境にも十分な配慮を行いました。

今後は、下水道事業団の「性能規格」をクリアしたノンクロス工法に仕上げるべく性能照査の取得を行っています。スプレーによる施工ができない箇所、有機酸発生箇所等を中心に更なる工法確立を目指していきたいと考えております。続く目標は一晩で防食施工ができる「ワンナイト防食工法」の開発です。

今後のレジテクト本部の新商品、新工法にご期待下さい。

② 鑄の進行をレジテクトが止める

この施工対象は、某大手精密機械メーカーの排水貯蔵タンクです。形状は円柱型鋼製タンクで外観は正常ですが、内部は腐食が激しく、当初プラスチックでケレン処理を行なう予定でしたが、近隣の騒音問題と鋼製タンク自身が古くプラスチックに耐えられない可能性があり、サンダー処理のみにとどめました。防食工事はレジテクトBT-T工法で施工しました。施工完了から6ヶ月ほど経ちますが、現在も全く問題ありません。

民間の工場には、このような排水処理タンクが多数あり、その多くが塗装のみというものがばかりです。そのためタンクそのものを交換する場合が多いのですが、今回のように交換ではなく延命するという方針で、今後民間をターゲットとした営業を推進していきたいと考えております。



工事概要	
工事件名	大手精密機械メーカー排水槽防食工事
工事期間	平成19年8月6日～8月8日
施工部位	鋼製タンク
発注者	大手機械メーカー
施工会社	東邦ビルト株式会社
仕様	レジテクトBT-T(1.8mm仕様)

工事概要	
工事件名	大手精密機械メーカー排水槽防食工事
工事期間	平成19年8月6日～8月8日
施工部位	鋼製タンク
発注者	大手機械メーカー
施工会社	東邦ビルト株式会社
仕様	レジテクトBT-T(1.8mm仕様)

東京支店 SV 三浦 順滋郎

北海道でも開水路初採用！！

株式会社前田理工は、平成19年9月に富良野土地改良区発注の農業開水路の改修工事をCVスプレー工法にて施工しました。

一昨年から同社営業エリアの土地改良区事務所に対してCVスプレーの資料を持参し、営業活動をしていたところ、富良野土地改良区で改修計画があるとの情報を得ました。

富良野土地改良区は改修するにあたり、既に他社製品で試験施工を実施していましたが、株式会社前田理工と改良区の説得に当たりました。昨年の4月に試験施工を行い実際に製品（工法）を見てもらうと共に、7月には土地改良区の理事の方々にも経年後の施工現場を見てもらい、品質の高さを評価して頂きました。

受注直後は、悪天候で工事が進まなかったのですが、施工箇所の用水路をビニールで覆うことで工事も順調に進捗し、工期内で終了することができました。

竣工後、富良野土地改良区の担当者様からの評価も高く今後の継続受注に期待が持てます。

札幌営業所 所長 SVリーダー 国定 達雄

現場名	4441平成19年度国営造成施設管理体制整備促進事業（管理体制整備）
東中第1用水予備保全対策工事	
現場住所	北海道空知郡上富良野町
仕様	CVスプレー工法（SQS工法）
施工面積	509.9m ² （全長200m）
工期	平成19年9月10日～12月3日
施工会社	株式会社前田理工



道路管理者の悩みを解決・街並みに美観が帰ってきた！！

セラゼックスRVクリヤー：落書き防止塗装
(恒和化学工業株式会社製品)

ホップ 新技術説明会

日 時	2007年9月3日13:30～16:30
講習会名	新技術協議会第2回技術講習会
依頼者	国土交通省横浜国道事務所厚木出張所長
場 所	厚木市文化会館
説明工法	5工法（当社はSQSシステム工法協会として説明）
参加者数	36名

新技術説明会で当社はSQSシステム工法協会としてSQSの各種工法を説明しました。その中で無機系落書き防止塗料の説明をしたところ、落書きで大変困っている現場があり、試験施工をして製品評価をすることになりました。

ステップ 試験施工を実施

試験施工概要(2007年11月11日～14日)

試験名称	落書き・張り紙防止試験塗装
現 場	国道246号線下鶴間トンネル深見交差点付近
場 所	神奈川県大和市鶴間2丁目
管理機関	国土交通省厚木国道事務所
試験施工箇所	既存防音壁アクリル板面
試験面積	車道面30m×1.0m=30m ²
緑地帯面	10×1.0m=10m ² 計40m ²
条 件	アクリル板が透明であるため、試験用塗料は透明であること。 既にある落書きは消し去る。ビラは取り去る。

既設の防音壁アクリル透明板が、悪質な落書きやビラ貼りにより汚され、街の景観を壊しています。そこで、株式会社KFCと株式会社ダイフレックスは、道路管理者に対し「落書きされても容易に消し去ることができる」塗料を提案し、管理者から現地試験施工を許可されました。

この試験施工は、塗装材料、塗布方法を試験し、実際に試し落書きを行い、試験塗装の成果を照査分析します。さらに、この塗装方式が、落書き被害の防止、美観の保持に採用できるか確認するものです。

ジャンプ 本採用決定

工事概要

工事名称：鶴間トンネル防音壁落書き・張り紙防止塗装工事（仮称）
工事目的：道路維持、環境保全

国道246号線大和市鶴間地区を通過する掘削式鶴間トンネル側道の、透明アクリル板防音壁と防音板外鋼板の落書き消し・張り紙の除去を行い、引き続き表面に特殊塗料を塗り、今後、例え落書きや張り紙されても、容易に消し去り、剥ぎ取り除去できるようにするものです。

施工場所：国道246号線大和市下鶴間～西鶴間トンネル

発注者：国土交通省関東整備局横浜国道事務所厚木出張所

施工者：国土開発工業株式会社

塗装範囲：既存防音壁アクリル板面、金属縁柱面およびガラス板

塗装面積：アクリル面 882m² 金属縁柱面 241m²

防音壁外鋼板面 1,560m²

工事期間：平成20年2月25日～3月25日

工法名称：除去・薬剤噴霧、布拭きによる人力作業

塗装・アクリル面 セラゼックスRV工法（ガラス質塗膜）

ガラス面 セラゼックス工法RV工法（ガラス質塗膜）

刷毛、ローラによる人力塗布



透明アクリル板が落書きで無残な景観になっています



アクリル板を傷つけないよう人の手で拭取り・剥がし作業が行なわれます



セラゼックスRV工法で透明性を保ちます



竣工当時の美しい景観を取り戻すことができました

塗装工程	塗料名称	調 合	塗り 回数	塗装 方法	噴霧り 付け量 (kg/m ²)	標準膜厚 (μm)	塗装間隔 (20°C)
素地調整							
	表面の汚れ、付着物、油脂、既存落書き消し、既存張り紙貼去、接着剤の除去。水洗浄、乾燥						
下塗	ダイヤセラゼックスRVクリヤー	A液（基剤）14kg B液（硬化剤）2kg 所要量： 0.06kg/m ²	1	ローラー 刷毛	60	-	2時間以上 7日以内
上塗	ダイヤセラゼックスRVクリヤー (無溶剤系無機質クリヤー塗料)	A液（基剤）4kg B液（硬化剤）1kg	1	ローラー 刷毛	60	25	-

事業推進部 課長 SVリーダー 塩月 広行